

特集：高齢者によくみられる皮膚疾患

【巻頭言】

荒瀬 誠 治 (徳島大学医学部皮膚科)

重見 文 雄 (浦田病院皮膚科)

世界最高の高齢化社会を実現した日本は、これからの高齢者医療を考える上で世界の実験国家となった。「老化に伴う疾患群，高齢者の医原性疾患」患者を，どこよりも多くかかえる国になったことはまちがいない。加えて，一組の男女から1.5人以下の子供しか生まれない少子化現象のまっただなか，我々の思いが「高齢者(患者)医療」に傾くのは自然の現象である。

その高齢者の疾患，医療には，

1. 肉体的，精神的老化症状が顕性化する。
2. 老化そのもので必然的に起こってくる疾患群が増加する。
3. 肉体的老化に基づいて起因する2次性疾患群や精神的，頭脳的老化に起因する2次性疾患群も増加する。
4. 元来持っていた疾患の悪化が目立つ。
5. 1患者あたりの保有する病気が増加する。
6. 薬の種類や服用期間，検査等の増加に伴い医原性疾患が増加する。
7. 持続的な看・介護を要する事態が生じ，疾患が難治化しがちである。

などの特徴がある。いずれの項も，そこだけを取り上げれば対処は大変と思われるが，よくよく考えれば，各々は前もって予測でき，準備できる。すなわち周知し，予測し，準備できればそれなりに予防可能であったり，発症しても十分に手が打てるはずである。そのためにも私達は高齢者に多い疾患群について十分な知識を持ち，予防できるものは予防し，よしんば疾患が出現しても，それが自分の手に負えるものかどうかを素早く見極め，最良の手段を講じることで，難治化を防がなければならない。

皮膚とて老化は免れず，高齢者に多い皮膚疾患も数多

く，一部は不適切な治療で致死的となるものもある。それらの皮膚疾患には

1. 肉体的老化症状の顕性化が疾患に至るものとしては，皮膚の乾燥，脆弱化，バリア機能不全等に基づく皮膚掻痒症，乾燥性湿疹，痒疹，丘疹紅皮症らの皮膚炎群がある。
2. 老化そのもので必然的に起こってくる疾患の代表例としては，皮膚癌や自己免疫性水疱症，紅皮症などがある。
3. 肉体的，精神的，頭脳的老化に基づいて起因する2次性疾患群としては，褥瘡，細菌・真菌・ウイルス感染症，動物性皮膚疾患，火傷を含む外傷や事故が問題となる。
4. 元々持っていた生活習慣病が遷延悪化し，四肢末端皮膚に壊滅的障害をもたらしたり，重症の各種感染症が容易に生じる。
5. また，患者一人あたりの保有疾患が増え，薬の種類や服用期間，検査等も増加するために，複雑な薬疹やその他の医原性疾患がもたらされる。
6. 持続的看護，介護を必要とする患者さんにおいては，よほどの場合を除き，病態が悪化し難治化しがちである。

などの特徴がある。いずれも患者の尊厳やQOL(Quality Of Life)を踏みにじり脅かすばかりか，経過や治療内容を考えると日本の医療を圧迫するものとなる。

皮膚科医は，これらの疾患・病態に関する情報を，老人医療の現場で活躍されている人々にきちんと伝える必要がある。薬疹に絞って考えてみても，その70%以上が高齢者に出現し誘発薬剤は抗圧剤が最も多いこと，薬物の種類が増えるほど薬疹発生は対数的に増加すること，老人の膠原病は薬物によって引き起こされている例が多いこと，などを他科の医療人にきちんと伝え，警鐘しな

ければならない。今回は各所で高齢者皮膚のトラブルに対処している先生方に、現実的な情報・話題の提供をお願いした。内容は狭い病因論に陥ることなく、むしろ症状と治療に絞っていただき、加えて皮膚科医はどのような皮膚症状に注目しているのかという、コツについても語っていただいた。

老人医療の現実を知らない皮膚科的知識は意味をなさないが、現実をいくら知っていても知識がなければ、皮膚疾患への医療は間違っただけのものになるのは必定で、それは患者にとって病態を悪化させるのみならず QOL をも低下させることになる。